

# チシヤの新病害、灰斑病

西門義一・日浦運治

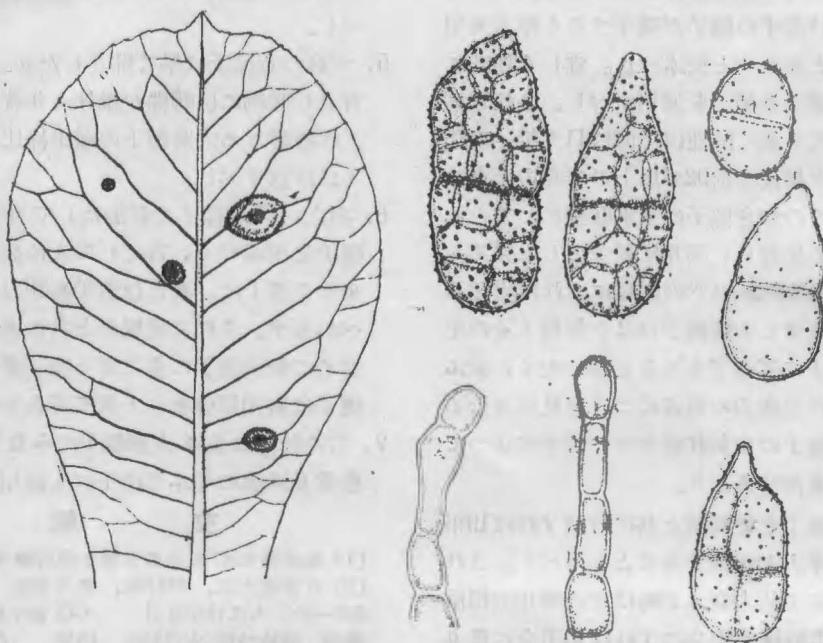
**病状** 葉に両面性類円形の病斑を生ずる。最初灰色の径2〜3mmの斑点を生じ漸次拡大して径15mm以上時に20mmに及ぶ円形の斑点となる。病斑内部は少々褪色し、其間に濃淡の度を異にした同心輪紋を生ずる。病斑の両面特に裏面に微かに隆を認める。胞子の形成である。

**病菌の形態** 擔子梗は褐色で單生又は叢生長さ50ミクロ幅基部で約10ミクロ其他の部分で5〜8ミクロ数個の隔膜がある。分生胞子は卵形、楕円形、先端は僅かに乳頭狀に突出し基部には臍を有する。淡褐乃至褐色老成した物は濃褐色。中央に1個の判明せる横隔膜を有し幼時はこの1個の横隔膜のみであるが老成した物では縦横に数個の隔膜を生ずる。その横隔は1〜7個、平均3.2個、縦隔は0〜2個平均0.5個稀に20個以上の小胞に区分される事がある。表面に小

疣を有する。胞子は長さ25—79. 平均49.0ミクロ(最多員價52ミクロ) 幅5—39平均19.9ミクロ(最多員價22ミクロ)。水中にて容易に発芽し各小胞から発芽管を生ずる。

**病菌の名稱** 本菌は其形態から L. R. Tehon 及び E. Daniels (Phytopathology XV, p. 714—719, fig. 1, 1925) 氏創設の *Thyrospora* 属の物であるが、チシヤ類に生ずる該属菌は記載がないのみならず之に相当する菌が見当たらないから *Thyrospora Chisha* の新名を附することにする。詳細は改めて大原農業研究所報告第9巻第3号で記載の予定である。

**寄主植物** チシヤ (*Lactuca Scariola* Linn.) の葉。岡山縣倉敷市大原農業研究所圃場にて昭和22年7月29日大島俊市採集。



*Thyrospora Chisha* Nishikado et Hiura n. sp.

病徴(左方0.7倍),病菌の擔子梗(中央下)及び分生胞子(700倍)